

令和3年度 第1回「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」 議事録

J C I 四 国 支 部
四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会

1. 日 時 令和3年12月4日(土) 15:00～16:55
2. 場 所 Zoom によるリモート会議
3. 出席者 別紙 資料1 のとおり
4. 配付資料
 - ①令和3年度 第1回「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」出欠一覧
 - ②令和3年度「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」委員一覧
 - ③コンクリート教育モデル活動校一覧表(2006年～)
 - ④コンクリート関連企業への就職者数調査(平成27年～令和2年)
5. 令和2年度議事録について
 - ・昨年度の本研究委員会議事録について尾寄幹事長から説明があり、委員の共通理解が図られた。
6. 議題
 - ・以下について審議し、次の結果を得た。
 - (1) 委員長挨拶
 - ・3期ぶりの委員長となる。新任委員の方も出席されているので、本研究委員会設立の経緯について説明がなされた。
 - (2) 近況報告・・・資料1
 - ・1年ぶりの開催であるため、出席された委員全員から近況報告が行われた。
 - ・新型コロナウイルスの影響がまだ残っているものの、徐々に回復傾向にあり、授業や学校行事が感染対策のもと行われているという報告が多かった。また、今取り組んでいるコンクリート教育に関する活動や本研究委員会の委員交代についてなど、それぞれの委員から近況報告が行われた。
 - (3) コンクリート教育モデル活動校による活動の中間報告
 - ・昨年度、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度にスライドしてモデル活動校となっていた香川県立多度津高等学校の尾寄教諭から、仮題「本校におけるコンクリート教育」として中間報告が行われた。
 - ・委員からは、骨材としてカキ殻を使用していたことについて、粉碎方法や骨材の試験方法、スランブ試験などのフレッシュコンクリートの試験方法についての質問があった。尾寄教諭からは、直接担当していないため、担当者に確認して、4月の総会で報告する旨の回答が得られた。
 - (4) 令和4年度コンクリート教育モデル活動校の審議・決定・・・資料3
 - ・令和4年度のモデル活動校は、ローテーションにより徳島県の学校になる。徳島県の委員からは、徳島県立つるぎ高等学校が推薦され、本研究委員会において承認された。

今後、来年1月のJ C I 四国支部の幹部会に本研究委員会から推薦することにした。
また、令和5年度のモデル活動校は、ローテーションにより高知県の学校になるので、高知県の委員に次年度の本研究委員会でも推薦いただくことを依頼した。

- ・モデル活動校への支援額について、今年度は15万円だったので、次年度も同額をJ C I 四国支部に要望することが本研究委員会で承認された。

(5) 令和4年度 第15回コンクリート甲子園への支援について審議

- ・今まで事務局を担当してきた香川県立多度津高等学校が第14回コンクリート甲子園を最後に、事務局を交代することになった。第15回からの事務局・会場は現在調整中のため未定である。このことから、本研究委員会からコンクリート甲子園に対しての支援要望は行わないことが承認された。
- ・これまでコンクリート甲子園に対して行ってきた支援を、今後はコンクリート甲子園の予選に出場する四国内の学校に10万円を原資として配分して出場校の活動を支援してはどうかということが提案され、本研究委員会で承認された。今後、来年1月のJ C I 四国支部の幹部会に要望することにした。

(6) 「コンクリート関連企業への就職者数調査」結果報告・・・資料4

- ・平成27年度から令和2年度卒業生までの6カ年間の就職者数を調査し、本研究委員会に報告がされた。結果は就職者7名と、ここ5年間の平均値程度の人数となった。
- ・本研究委員会設立の最終の目的はコンクリート関連企業への就職者数増であり、アプローチの方法について協議された。委員からは、生コン工場等へのインターンシップやコンクリートを扱う工事現場の見学会を行うことが有効ではないかという意見があった。このことについて、橋本委員長からJ C I 四国支部にも関係者が多数会員登録されているので1月のJ C I 四国支部の幹部会に提案することになった。

(7) コンクリート教育に関する意見交換

- ・阿南工業高等専門学校では、徳島県の技術士会の協力で、毎年90分の出前授業を2学年行っているという報告がされた。香川高等専門学校では、香川県の技術士会の協力で3年生を対象に12月に前出授業が行われていると報告があった。さらに香川高等専門学校では、P C 建設業協会の協力により、実験や実習を織り交ぜた出前授業があり、学生が興味を持って取り組んでいるという報告もあった。

(8) 次回委員会開催日の検討

- ・委員の移動に対する負担軽減から、次年度も今年度同様にZoom会議形式で本研究委員会を開催することが承認された。日程については、8月頃で次期幹事長が調整することになった。モデル活動校からの中間報告については、時期的に早いので活動に入っていないければ計画のみを報告をいただくことにした。

(9) その他

- ・今年度をもって、尾寄幹事長が退任することになった。令和4年度からは高知工業高等専門学校の近藤委員が新幹事長に就任することが本研究委員会で承認された。今後、1月のJ C I 四国支部の幹部会に提案することにした。

(記録 尾寄秀典)